

ジャワ古典文化論講義

第2週 2007年10月12日

テーマ：インド的世界観

ねらい

古代インド人の世界観は東南アジアはもとより東アジアにも大きな影響をもたらした。ここでは、仏教とヒンドゥー教の世界観および仏教の六道説にわけて概観する。

1. 仏教の世界観

世界の構造

- 風輪（高さ1,600,000由旬）（1由旬=約7km）
- 水輪（800,000由旬）
- 金輪（320,000由旬）
- 須弥山（しゅみせん、1辺80,000由旬）
- 7つの山脈（方形）
- 四つの州（dvipa、大陸、州）：東勝身州（しょうしんしゅう）、南瞻部州（せんぶしゅう）、西牛貨州（ごかしゅう）、北俱盧州（くるしゅう）。東→南→西→北。
- 鉄围山（てっちさん、円形）

瞻部州の構造

- 瞻部州、閻浮提（えんぶだい）Jambu-dvipa
- ジャンブ（フトモモ *Eugenia jambolana*）3-5cmの果実。
- 台形（2,000由旬×3辺、3.5旬）
- 雪山、無熱惱池（むねつのうち）
- ガンジス河、インダス河、オクサス河、シーター河
- 銀牛口、金象口、瑠璃馬口、玻璃獅子口
- 香醉山（カイラーサ山）
- 遮末羅（しゃまつら）、筏羅遮末羅（ばつらしゃまつら）

須弥山

- 須弥山（Sumeru、Meru、妙高山）
- 高さ：16万由旬（水面下に8万由旬）
- 幅：方形、1辺8万由旬。
- 頂上：三十三天（Trayastrimsa、トウ利天）。中央に帝釈天（Indra）の宮殿（殊勝殿）。四隅の峰に8天。計33天。
- 中腹：四天王の住居
- 四天王：東持国天、南增長天、西広目天、北多聞天（毘沙門天）
- 太陽、月
- 空中宮殿（vimana）：觀史多（Tusita、兜卒天）、将来仏の所在地（弥勒菩薩）。

地獄

- 地獄 (naraka、奈落) 贍部州の地下。
- 八熱地獄：統活、黒繩、衆合、号叫、大叫、炎熱、大熱、無間地獄
- 副地獄：128
- 八寒地獄

2. ヒンドゥー教の世界観

世界の構造

- 「ブラフマー神の卵の殻」
- ジャンブ州 (円盤状)：直径 100,000 由旬 (1 由旬=約 15km)
- 6つの大陸と海 (ドーナツ状)：第4の海サルピス海
- メール山：ジャンブ州の中央にそびえる黄金の山。高さ 84,000 由旬、頂上部の直径 32,000 由旬。
- メール山の北側と南側にそれぞれ東西に走る山脈が3つずつ。山脈の間に国。
- メール山頂：ブラフマー神 (Brahma、梵天) の都城。
- その八方にローカパーラ (護世神) の都市：東インドラ神、南ヤマ神、西ヴァルナ神、北クヴェーラ神、南東ヴィヴァスヴァット神、南西ソーマ神、北西アグニ神、北東ヴァーユ神。
- バーラタ国：
- 最南端の山脈：ヒマヴァット山脈 (Himavat、ヒマラヤ)。
- 最南端の国：バーラタ国 (Bharata)。バラタの子孫の国。南を弧とする半円形。南北の幅 9,000 由旬。
- 地下世界 (パーターラ)：7 層。ダーナヴァ (阿修羅の仲間)、ダイティヤ (阿修羅の仲間)、ヤクシャ (夜叉)、ナーガ (竜) などが住む。
- 地獄 (ナラカ)：28 地獄。
- 空界 (ブヴァル・ローカ)、天界 (スヴァル・ローカ)：三界。

3. 六道 (ろくどう、六趣ろくしゅ)：六つの生命形態

- 輪廻 (りんね) 転生 samsara
- 天道、人間道、修羅道、畜生道、餓鬼道、地獄道
- 天=神、帝釈天、梵天
- 修羅=阿修羅 asura
- 業=karman、行為
- 善因楽果・悪因苦果

参考図書：今回の講義のテーマに関わるもの

1. 定方 晟. 1973. 『須弥山と極楽』(講談社現代新書) 講談社.
2. 定方 晟. 1980. 『仏教に見る世界観』(レグルス新書) 第三文明社.
3. 定方 晟. 1985. 『インド宇宙誌』春秋社.

1と2はインドの仏教における世界観、3はインドのヒンドゥー教における世界観を取り上げている。